

学会賞受賞の紹介

2017年度 日本フードシステム学会学術賞

受賞タイトル：著書『日本の麦—拡大する市場の徹底分析—』

受賞者：吉田行郷（企画広報室長）



吉田行郷企画広報室長が「日本の麦—拡大する市場の徹底分析—」の著作により、日本フードシステム学会学術賞を受賞しました。

この賞は、特に顕著な研究業績を公刊した者に与えられるものです。

本書は、民間流通制度導入後、国内産麦のフードシステムが大きく変容し、その結果として国内産麦に対する評価が高まり、2次加工製品などで積極的

に使用されるようになってきていることを、全国ベースだけでなく、小麦と大麦・はだか麦それぞれの主産地ごとに実証的に分析することで解明しています。その上で、国内産麦の今後の需要拡大の方向性が各産地で異なることを示し、需要拡大のための課題についても考察しています。

こうした内容を踏まえ、本書は「将来、麦の研究を行おうとする者が必ず参照すべき論文であり、フードシステム研究の発展に寄与するところ誠に顕著である」として、2017（平成29）年6月10日に、本書の著者に対して学術賞が授与されました。

2017年度 日本フードシステム学会学会誌賞

受賞タイトル：『農業投資が食料ロスおよび国際コメ需給に与える影響
—部分均衡需給予測モデルによる分析—』

受賞者：小泉達治（食料・環境領域 主任研究官）



小泉達治主任研究官が論文「農業投資が食料ロスおよび国際コメ需給に与える影響—部分均衡需給予測モデルによる分析—」により、日本フードシステム学会学会誌賞を受賞しました。

この賞は、特に優れた論文を執筆した者に与えられる賞です。

本研究は、食料ロス率*を内生変数とした部分均衡需給予測モデルを新たに開発し、農業投資が食料ロス及び国際コメ需給に与える影響試算を行いました。

本研究により、ASEAN主要国における農業機械・設備投資の増加は、各国のコメの食料ロス率低下及び単収の増加に寄与し、これらが各国の供給量増加につながることで、国際コメ価格下落にも寄与することが影響試算結果から得られました。本論文はフードシステム研究の発展に寄与するところ誠に顕著であるとして、2017（平成29）年6月10日に、本論文の著者に対して学会誌賞が授与されました。

* サプライチェーンの収穫、運搬、加工等の段階における量的減少や劣悪な保管状態による品質低下等により消費者まで届かない量的減少を意味するFAOの定義。